

秋の叙勲 栄えある受章 おめでとうございます

ずいほうそうこうしょう
瑞宝双光章

【学校保健功労】原 捷平さん



令和6年11月3日付けで発表された「秋の叙勲」で、金井にある原医院の院長原 捷平さんが瑞宝双光章を受章されました。

◇主な経歴

昭和56年に原医院(金井)を開業。かんら保育園、秋畑・新屋幼稚園、秋畑・新屋小学校、第三中学校の学校医を務められました。長年にわたり児童生徒の健康保持と保健教育の充実に努めるなど学校保健・地域医療の向上、発展に尽力された功績が認められました。

◇喜びの声

「思いもかけぬ勲章を授与されました。私は、昭和56年に甘楽町に医院を開業以来、新屋小学校、新屋幼稚園、かんら保育園などの担当医をさせていただきました。それに対してのご褒美と思い、皇居に参内し天皇陛下にもお会いでき一生の思い出となりました」

県知事賞を受賞 創意くふう作品展 野中さん

創意くふうをすることの楽しさを知り、発明をより身近に感じ科学技術の振興に役立てることを目的とした「第95回群馬県創意くふう作品展」が開催され、野中精機(天引)の野中俊幸さんが出品したペットボトルオープナー『にゃんこの手』が群馬県知事賞に輝きました。

オープナーは、妻の八重子さんが乳がんの術後にペットボトルを開けられず苦労したことから、力の弱い人でも簡単にキャップを開けられるように設計・開発したもので、何度も試作を重ね、使いやすく安全性にも配慮した製品が完成しました。

『にゃんこの手』という名前は、飼い猫の"空"の行動が病気の早期発見につながったことに由来しており、"空"が八重子さんの胸に乗り甘えるような仕草をすることが続いていたある日、前足の爪が刺さってしまい痛みから胸をさすったところ小さなしこりに気付けたそうです。

俊幸さんは「受賞は驚きましたが、開発に協力してくれた多くの人に感謝しています。困っている人の生活の手助けとなることを願っています」と話しました。



▲森平町長(左)を表敬訪問した俊幸さん(中央)と八重子さん

- ▶穴の大きさは32mmと30mmの2種類。製品上部にはプルタブに対応した突起やキャップ付きパウチ容器を開ける小さな穴も装備



工場前の自動販売機でも販売中

県書道展で入賞 鈴木さん

第75回記念群馬県書道展覧会で、鈴木美晴さん(庭谷、雅号:谿琳)が「委嘱大賞」を受賞しました。

鈴木さんは県書道展において、応募を重ね入賞するなど書道の振興に特に功績のあった人が名を連ねる「委嘱作家」で、大字部門での受賞。長年書道に親しんでおり、仕事の第一線を退いてから本格的に書道を再開。自宅で書道教室を開く傍ら、新屋小や福島小で書き初めの講師を務めたり、地域で作成する感謝状や寄付者銘板への名入れを行うなどの活動もしています。

『空間や構成、にじみ、墨色などが美しく、自分の思いを表現できるように』という師の教えを胸に書を追求し、今回の受賞にも「まだまだ課題が多い」という鈴木さん。「入賞は指導いただいた先生方、支えてくれた仲間や家族のおかげです。これからも書道を通じて自分自身を表現し、地域貢献もしていきたい」とさらなる意気込みを語りました。



▲作品の製作過程を再現する鈴木さん



◀入賞作品「禱(いのる)」
記念冊子から転写したため墨色は実際のものと異なります。紙の大きさは91cm×121cm

紙すき文化と和紙に思いをはせる

甘楽町歴史民俗資料館は12月25日、かつて秋畑地区で生産されていた和紙について知ってもらおうと、秩父小川和紙を使用した「ちぎり絵キャンドルシェード教室」を開催し、子どもから大人まで幅広い年代の人が参加しました。

以前は、楮(和紙の原料となるクワ科の木)の皮を秋畑地区から埼玉県小川町に出荷していたことや、和紙の製造過程などを職員が分かりやすく説明し、小川和紙の手触りの良さや色合いの美しさなどの特徴にも触れた参加者はその奥深さに感心していました。

教室では、球形のガラスの外側にちぎった色とりどりの和紙を配置し、キャンドルシェードを完成させました。

吉田悦子さん(上野)は「和紙をちぎる感触もよく、楽しく作れました。すてきな物が作れたので家に飾りたいと思います」と笑顔を浮かべました。



▲親指大にちぎった和紙を刷毛を使い、のりで貼り付ける参加者



◀和紙が透けて幻想的な光を放つキャンドル

無病息災を願う どんど焼き

新春恒例行事の「どんど焼き」が各地区で行われました。

持ち寄っただるまやお札を燃やし、繭玉を焼くなど、無病息災、家内安全、五穀豊穡を祈りました。



文化会館 来場者120万人達成!!

平成6年11月に開館し、町の文化活動の拠点として、多彩なイベントや公演が行われている町文化会館の来場者が1月12日、記念すべき120万人に到達しました。

120万人の節目に入場したのは神宮梨乃さん(白倉)。神宮さんはこの日、「二十歳のつどい」に出席するため友人と来館しました。

森平町長から花束と記念品が贈られると、神宮さんは「20歳になり久しぶりに来ました。120万人目と聞き驚きましたが、特別な瞬間が20歳と重なり良い記念になりました」と話しました。



120万人目の幸運を喜ぶ振袖姿の神宮さん(右)

県選抜チームで全国大会出場 甘楽中生

甘楽中学校男子ハンドボール部から2人、女子バレーボール部から1人が群馬県選抜メンバーに選出されました。

ハンドボール選抜は12月21～24日に長野県で開かれた第33回U-15ジュニアセレクトカップに出場しました。チームは準優勝という結果を残しました。

バレーボール選抜は12月25～28日に大阪府で開かれたJOCジュニアオリンピックカップ・第38回全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場しました。チームは予選リーグ敗退となりましたが、粘り強いプレーが随所に見られました。



坂井陵哉さん(3年)
「自分なりのプレーをすることができました。大会を悔いなく終えることができて良かったです」



熊井戸快吏さん(3年)
「貴重な経験ができ、大きく成長することができました。高校でもこの経験を生かして頑張りたいです」

恩幣心菜さん(3年)
「緊張したけれど、今までで一番良いプレーができました。高校でも頑張って続けていきます」

園児が適切な利用をよびかけ「110番の日」

富岡警察署と甘楽町地区駐在所連絡協議会連合会(吉田茂雄会長)は1月10日、めぶきの森かんら(矢野勅仁園長)で「110番の日」の広報活動を実施しました。

園児たちは交通安全や防犯について、自分自身の身を守る方法を紙芝居などで学んだ後、代表園児8人が園の前の町道を通行する運転手に花やチラシを配り「110番の日」をアピールしました。

吉田会長は「多くの人に110番の適切な利用方法を知ってもらいたい。これからも子どもたちの事故防止、そして地域の安全安心を守る活動を継続していきます」と話しました。



警察官の制服を着用し啓発品を手渡す園児